



長崎県のビジョンはビジネスモデル検討調査と普及促進会議の内容をもとに2013年5月策定。公共性や地域振興の観点から必要な箇所に急速充電器32基、急速または普通充電器32基の、計64基が設置目標。

EV・PHVとITSをさらに連動させた、未来型ドライブ観光システムがほぼ完成!



① 日本の渚百選「高浜海水浴場」とEVレンタカー。五島列島では「わナンバー」の軽自動車EVレンタカーを各所でよく目にする ② 五島列島の代表的観光スポット、堂崎教会 ③ タイマーで深夜電力にて充電する「大波止タクシー」のEVタクシー ④ 地元ゆるキャラのラッピング塗装で人気の、五島市公用車EV ⑤ 出前配達にEVを活用する「うつみ食堂」

Vision

今後の展望

先進ITS活用で島おこし
IP系と非IP系のITSスポットの使い分けで、EVにより有益な情報提供ができる未来型ドライブ観光システムが完成形に近い。今後は具体的な地元情報をいかに充実させ、ビジネスモデルを確立できるかが地域振興の鍵を握る。

Urserye

利用者の視点

EVの島として人気

五島列島ではEV導入後のレンタカー利用者が累計6万人以上に上る。実際「EVに乗りたくて来た」「EVドライブが楽しかった」という声が多く、EVアイランドのイメージが定着しつつある。

の標準化でめざすは
地域資源活用

関の欠航情報や災害情報などをナビへ自動通知する。スマートフォンでの充電施設稼働状況確認や、電装系の使用状況をリアルタイムにナビが取得、走行ルートの勾配などを読み取って目的地までの電池残量予測を行う機能など、「電欠」解消への進化は目覚ましい。

島内民間業者にてEVを積極導入する機運がある点も注目だ。

A photograph showing two silver Toyota Mirai hydrogen fuel cell vehicles parked side-by-side in a parking lot. The cars are sleek sedans with distinctive front grilles. In the background, there is a grassy area, some trees, and a body of water under a clear sky.

The image consists of two side-by-side photographs. On the left, labeled '4' in a green box at the top, is a small, light-colored car with a vibrant, cartoonish wrap featuring strawberries and a character. On the right, labeled '5' in a green box at the top, is a white van with blue and yellow accents parked in front of a traditional-style building with a tiled roof and wooden trim.



現状

目標を上回るEV普及

2013年4月30日時点でEV約510台、PHV約120台の合計約630台が県内に普及。一般公開の充電インフラは急速充電器43基、普通充電器49基。20km間隔で充電器配備というコンセプトは五島地域では達成済み。

Condition

にEV138台、PHV2台をプロジェクトにより集中導入。140台のEV・PHVがレンタカーやタクシー等に活用される一方、急速充電器は県全域で43基あるうちの約3分の2、15力所28基が集中する。こうした状況下、環境や観光を軸とした長崎県の地域振興や産業創出を目的に、EVとHES（高度道路交通システム）を連動させた「未来型ドライブ観光システム」

島内の急速充電器設置場所は一～ラスポットを併設。旅行者は充電時に「長崎みなみナビ」から観光スポットや充電スポットなどへの地域情報が得られ、閲覧画面（Web）からそのスポットの位置情報をナビにダウロードし、「目的地・経由地」に設定できる。コース情報などを一括して設定できる機能も追加される予定だ。また、非一系一～ラスポットでは、交通機

目標

2013年度頃までEV500台

アクションプランでは2013年度前後
までにEV・PHVを県内500台普及が
目標。充電インフラについては同時期
まで200V電源を県内500カ所に整
備との設定。ただし一般非公開も含
むため、目標数ではない。

Target

→アイランドとして注目される五島エリア（五島市・新上五島町）では、「長崎E.V.&IT-S（エビツ）」プロジェクトを展開している。キリスト教関連遺産等で有名なこのエリアで、2011年度まで

の実現をめざす。いわば、E-TSが旅行添乗員のようにガイドを行つたイメージだ。E-TS用観光ナビのルール化・標準化をめざす産官学の協議会「長崎E-TSコンソーシアム」には、現在211ヶ団体が参画している。